

巻頭言

第70回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第70回日本医学放射線学会総会 会長
東京大学大学院医学系研究科放射線医学講座 教授
大友 邦

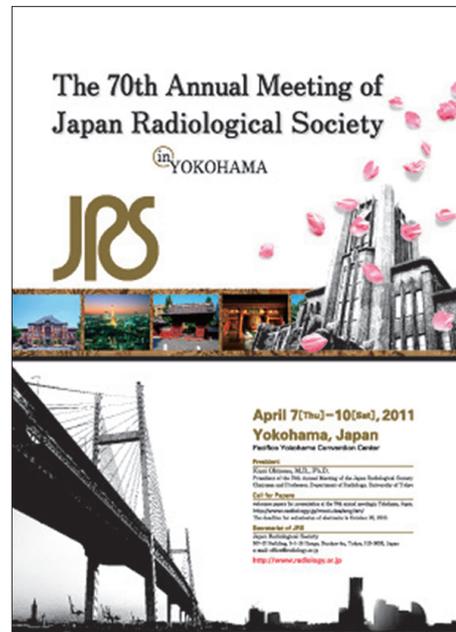


大友 邦 先生

2011年4月7日(木)～4月10日(日)の4日間、パシフィコ横浜において、第70回日本医学放射線学会総会を開催いたします。メインテーマは「放射線診療の明日－多様性を推進力に」としました。第67回日本放射線技術学会総会学術大会、第101回日本医学物理学会学術大会、2011国際医用画像総合展も同時に開催され、今年も2万人を超える参加者が見込まれています。IVRを含む診断学、核医学、そして放射線治療(腫瘍)学を内包する放射線医学の最大の特徴はその多様性にあります。また放射線診療を維持・発展させるには、放射線科医、診療放射線技師、医学物理士、看護師など様々な職種のスタッフのチームワークが不可欠です。多様性の大切さを再認識することで、我々の明日が開けてくると考えています。最新の研究データから、放射線科医として必要な情報を得る場として、例年と同様シンポジウム、特別講演、一般講演、教育講演、研修医セミナーなどを用意しております。それでは、多くの方々に横浜でお会いできることを楽しみにしております。

1. はじめに

近年の放射線医学の進歩は目覚ましく、診断学、核医学、放射線治療、インターベンショナルラジオロジー (IVR) の4分野で、類を見ない急速な発展を遂げてきました。本総会は毎年春に開催される放射線医学全般の学術講演会であり、全国の放射線科医と関連分野の医師・技師・研究者が一堂に会し、多方面から最新の研究成果を発表し、討論する場でもあります。本総会で発表される研究成果は、社会的に注目を集め、高く評価されています。医学の領域においてますます重要性が高まっている放射線医



JRS 2011 ポスター

学の地位をより強固なものとするのが、我々に課せられた今後の使命と考えています。

今総会の主題は「放射線診療の明日－多様性を推進力に」です。IVRを含む診断学、核医学、そして放射線治療(腫瘍)学を内包する放射線医学の最大の特徴はその多様性にあります。また放射線診療を維持・発展させるには、放射線科医、診療放射線技師、医学物理士、看護師など様々な職種のスタッフのチームワークが不可欠です。多様性の大切さを再認識することで、我々の明日が開けてくると考えています。

2. 会期ならびに会場

2011年4月7日(木)～4月10日(日)の4日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜において、第70回日本医学放射線学会総会を開催いたします。2009年の第68回大会から会期が4日間となっておりますが、今回は中堅・若手参加者の負担軽減を目的に、実質的な会期は3日間とさせていただきます。御自分の都合に合わせて、密度の濃い学会参加としていただければ幸いです。

前回同様に登録受付は展示ホールAに十分な広さを設けて混雑の緩和を図ります。さらに、レビューセンターや各学会の受付、CyPos閲覧会場も設置し、展示ホールAに学会の主な機能を集めることで、参加者にとって少しでも便利な学会を目指したいと考えております。



JRC2011 ポスター

3. 参加登録

参加登録費は会員13,000円、非会員20,000円、学生1,000円です。

4. プログラム

発表形式は、一般口述発表、CyPos発表、実機展示発表、教育展示の4つに分けられます。

学会に先立って、「検診の有用性と問題点」をテーマとした市民公開講座を、4月3日(日)に東京大学構内安田講堂で開催いたします。

今回は、日本医学放射線学会、日本放射線技術学会および日本医学物理学会の合同シンポジウムとして、以下の3つを予定しています。企画1「人材育成」では、次世代を担う画像診断医、放射線治療医、診療放射線技師、そして医学物理士をいかに育てていくかを議論していただきます。企画2「最新技術を臨床に」では、CT、MRI、PETの最新技術をいかに有効活用するかについて、放射線科医と診療放射線技師の立場から発言いただきます。企画3「放射線診療におけるプロフェッショナリズム」では、臨床現場でのプレゼンスを高めるために我々に求められていることについて、医師、技師、看護師など多様な立場から提案をしていただきます。

日本医学放射線学会の特別企画としては、①見落としの科学、②神経腫瘍、③分子生物学からみた放射線腫瘍学、④認知症、⑤動脈硬化の5つをテーマとしたシンポジウムと、超音波医学の最前線をテーマとしたワークショップを開催いたします。また① Adaptive Image Guided Radiation Therapy、②世界のエキスパートはいかに診断するのか、という2つのテーマでInternational Sessionを企画し、米国、ヨーロッパ、アジアから著名なSpeakerに加わっていただき、討論を行います。Session参加のエキスパートにはイメージインタープリテーションの解答者を合わせて務めていただきます。日本医学放射線学会の海外名誉会員になられるGary Glazer、Guo Qiyongの2名の先生方に、記念としてHonorary Lectureを行っていただきます。

また関連領域の特別講演(医療経済、救急医学、痔瘻、ポストゲノム、病理解剖と死後画像、脳炎・脳症、分子イメージングプローブ開発、臨床解剖学)と、放射線医学の特別講演(肝細胞性結節、腹膜腔、高次脳機能、アイソトープ内用療法、高精度放射線

治療，CTガイドIVR)を企画しております。ご期待ください。

もちろん今回も教育講演は充実した内容になっており，研修医セミナーも例年どおり開催いたします。

市民公開講座

「検診の有用性と問題点」

平成23年4月3日(日) 10:00~12:00

会場：東京大学安田講堂(登録有形文化財)

定員：500~1,000名

座長：大友 邦(東京大学医学部附属病院放射線科教授)

演者：

1) 遠藤 登喜子先生(乳腺，独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター放射線科)

2) 斎藤 延人先生(脳，東京大学医学部附属病院脳神経外科教授)

3) 宇野 漢成先生(循環器，東京大学医学部附属病院コンピュータ画像診断学/予防医学講座准教授)

4) 中川 恵一先生(がん一般，東京大学医学部附属病院放射線科准教授)

東京大学構内の安田講堂では，学会に先立ち4月3日(日)に市民公開講座が開催される。テーマは「検診の有用性と問題点」。

5. おわりに

多忙な毎日を過ごされ，まとまって勉強する時間を持たない会員の方々に，教育講演で日常臨床に役立つ知識の整理を，合同企画では放射線診療のさまざまな役割の検証を，そしてシンポジウムなどの特別企画では最新の知識をリフレッシュしていただき，充実した学会になるよう準備を進めておりますので，多くの方々のご参加を心からお願いする次第です。

